資料 5

分科会①　関連資料

防災ボランティア活動に係る人材育成と男女共同参画

目　次

1.「平成１６年度防災とボランティアのつどい」「第２回防災ボランティア活動検討会」より関連意見の抜粋 1

2．ヤッテボラン（水害ボランティア活動の紹介） 3

3.防災ボランティア活動に係る人材育成の実例 8

（1）研究機関による人材育成の実例 8

（2）都道府県社会福祉協議会の人材育成の実例 10

（3）NPO 法人の人材育成の実例 12

（4）災害図上訓練のプログラム 13

（5）都道府県の人材育成の実例（アンケート調査結果より） 16

4.男女共同参画に関する情報 18

内　閣　府（防災担当）
防災ボランティア活動検討会（第３回）
平成１７年６月１０日

１.「平成１６年度防災とボランティアのつどい」「第２回防災ボランティア活動検討会」より関連意見の抜粋

【一般ボランティアに関して】

（１）「被災者のニーズに耳を傾ける」力が求められる

- 一人一人の被災者のニーズに耳を傾けるのがボランティアの使命であり、きめ細かいニーズを掘り起こしていくことが必要と思う（つどい）。
- ボランティアに必要なことは、被災者が何を求めているのかということを「聴く力」である（つどい）。

（２）率先して活動できるボランティアの育成が重要

- 率先市民（率先して何かをする人のこと）を育てることが大事（つどい）。
- 何をしに行くのかをはっきりしないまま行ってしまうと「ボランティア災害」と呼ばれてしまう。現地に迷惑をかけてはいけない（つどい）。
- ボランティア活動として、いろいろな事態に対応できる基礎的な力を作らなければならないだろう。人の問題であり、日ごろの訓練が問題であり、マニュアルをどう活かすかという、人材育成や、研修の問題といえると思う（検討会）。

（３）地域性を踏まえたボランティア育成の研修が必要

- 災害ボランティアの研修については、社会福祉協議会だけに押し付け任せにしておいてはいけないのではないか。社会福祉協議会については自治体ごとに運営方針が違う。地域性をふまえてそれぞれに工夫していくことが必要（つどい）。

（４）若い力を活かす、青少年の育成が求められる

- 災害時には青少年の力が必要。若い力を存分に地域のために注いでもらいたいので、育成することが大切（つどい）。
- 若者には「誰かのために何かをしてあげたい」という気持ちがある。この気持ちを活かすことが大事（つどい）。
- いざというときに自分から行動を起こせるように子供たちを鍛えるということを学校と連携してやっていくべき（つどい）。
- 現在の経験を次の世代に引き継いでいく必要がある（つどい）。

（５）行政マンでありながら、ボランティアに参加する「兼業公務員」は重要

- 行政マンでありながらボランティアに参加する「兼業公務員」の力というのは非常に大きい。「兼業公務員」を市民の手で、できるだけたくさんつくることが必要（つどい）。

【ボランティアコーディネーター・ボランティアリーダーに関して】

（6）ボランティアコーディネーターが不足している

- コーディネーターが不足しているため、ボランティアセンターの開設が被災後１週間後とあまりに遅いところがあった（つどい）。
- 新潟県中越地震のボランティアセンターではコーディネーターが非常に少なかった（つどい）。

（7）ボランティアセンターを運営するボランティアリーダー的な存在が必要

- ボランティアセンターの運営は短期的なスタッフの引き継ぎでは難しく、長期的に主導できるリーダー的スタッフの存在が不可欠だ。社協が受け皿ならば各社協２人は必要と思われる（つどい）。
- リーダーはボランティアを「する側」と「される側」の両面をしっかりと理解していなければならない（つどい）。
- リーダー、コーディネーターはフリーな立場で全体を見渡せし、判断することが必要。ニーズの拾い上げや、ニーズをどこまで実現するのかを判断する人が必要（つどい）。
- 判断や合意形成できる人がいないということを強く感じた（つどい）。
- 地元のコミュニティにある知恵や人脈の蓄積を引き出す必要がある（つどい）。

（8）ボランティアコーディネーターの重要性・求められる資質

- 現在行われているボランティアコーディネーター養成講座は、実動型のコーディネーターの育成になっていないのではないか（つどい）。
- ボランティアにカリスマ性はいらない（つどい）。
- いろいろな団体を調整し、合意形成に導ける人材が必要。そのための手法として「ファシリテーション」の技術を持った人必要である（つどい）。
- 何らかの専門性を持った人、自己完結のできる人、災害のイメージが持てる人（つどい）。

（9）広域ネットワークを視野にいれた人材育成が必要

- 東海地震、東南海地震を想定した広域（関西、東海、関東）の平時からのネットワークづくりが必要。広域での助け合いのしくみための人材育成には、かなり人手と知恵とお金がかかる（検討会）。
- 復旧・復興にかけて、かなり長い期間にわたって、専従的に政策提言を含めてかかわる人材が必要と思う（検討会）。

緊急特集!!

災害ボランティア

梅雨前線の活発な活動により、2004年7月13日から新潟県、18日から福井県を中心に、床上浸水・土砂災害などの被害が発生しました。被災地に設置された災害ボランティアセンターには全国から多くのボランティアが集まり、住宅の清掃、土砂の撤去作業などで活躍しました。第10号では、1995年の阪神・淡路大震災から盛んになったと言われる災害ボランティアについて、この豪雨被災地でのボランティア活動に関わる人々の声を中心に紹介します。

災害の状況と、活躍したボランティア

7月の豪雨災害では、災害ボランティアセンターが、新潟県では長岡市、三条市、見附市、栃尾市、中之島町に、福井県では福井市、鯖江市、美山町、今立町、池田町等に設置されました。

＜災害ボランティアセンターの主な流れ＞

災害発生 → 2、3日後 → センター設置 → 2、3週間後 → ボランティア受入終了センター終了 → 通常業務への引き継ぎ

①2004/7/23 福井県内にて

濁流により、家のトタンがはがれ、巨大な流木が軒先に流れ着きました。

いつもは美しい清流が、濁流となって多くの家屋を襲いました。

②2004/7/25 福井県内にて

庭先に積み上げられた土砂。災害によって家の中・外に堆積していたものです。

③2004/8/3 福井県柳地区にて

7月の豪雨災害の被災地各センターによるボランティア受け入れ人数
（8月26日現在）

○新潟県　45,299人
○福井県　57,899人

※内閣府公表資料「平成16年7月新潟・福井豪雨による被害状況等について」・「平成16年7月福井豪雨による被害状況等について」（共に8月30日公表）より。

ボランティアが活躍した最近の主な自然災害・人為災害

延べ140万人近いボランティアが参加したこの年はボランティア元年ともいわれています。

1993.7　北海道南西沖地震
1995.1　阪神・淡路大地震
1997.7　ナホトカ号海難、大量重油流出災害
.7　鹿児島県出水市大規模土石流災害
2000.3　北海道有珠山噴火
.6　東京都三宅島噴火災害
.9　東海豪雨水害
.10　鳥取県西部地震
2001.3　芸予地震
.9　高知県南西部豪雨災害
2002.7　台風6号による豪雨災害
2003.7　宮城県北部地震
.7　7月梅雨前線豪雨

延べ約28万人のボランティアが関わりました。福井県では、今回の7月の豪雨の際に、この経験がとても役立ちました。

出典：2004 内閣府『平成16年度 防災白書』

新潟で、福井で…

被災地で活躍したボランティアたち

被災地では、小学生から70歳代の人まで、様々なボランティアが活躍しました。活動内容とボランティアの声を紹介します。

ボランティア活動の優先順位

①屋内の泥を掃除する。
②家の周り（庭・畑）の泥を取り除く。
③備品の泥を取り除き、生活するのに必要な程度、復旧させる。
④被災自治体からそれ以上の要請があれば行う。

④2004/7/23 福井県鯖江市内にて

被災者と直接向き合うことができるのがボランティア活動です。被害が大きく、ショックが大きい人や高齢者、障害者などの中には、行政やボランティアセンターの窓口までSOSの声を届けることが困難な人もいます。そのような被災者の声を集めるため、一軒一軒訪ねて回る活動も行いました。また、私有地内の活動を行うことも、ボランティアの特徴です。まず家の中が片付くと、被災者が安心した表情を見せてくれるのです。

ふくい災害ボランティアネット
細川かをりさん

初めてのボランティアで、申込みするのも少しためらいましたが、少し役に立てたのではという満足感と、作業を共にした方々との温かいふれあいに、とても充実した一日を過ごせたなと喜んでいます。

神戸市からボランティアに参加した女性（42）

今回はたまたまインターネットでボランティアを募集していることを知り、体力には自信があったので参加しました。普段の生活では、様々な年代の人と何かをする機会がないのですが、活動を通して様々な人からパワーをもらうことができました。

京都市からボランティアに参加した田中千晴さん（大学生）

⑤2004/7/23 福井県鯖江市内にて

⑥2004/7/23 福井県鯖江市内にて

＜被災者からのメッセージ＞

私の自宅は濁流に飲み込まれ、家の中は泥の海、庭は瓦礫と木々のごみの山となりました。惨状を目の前にして茫然自失となり、不安と絶望で眠れぬ夜を過ごしました。ところが翌日、10人あまりのボランティアさんが来てくれ、汗と泥まみれになって働いてくれました。私は嬉しくて涙が止まりませんでした。災害は私から多くのものを奪いましたが、逆に人間同士の支え合いの心という尊いものをもらいました。私と妻は、ボランティア団体に入ることにしました。多くの人からもらった温かい気持ちを、少しでもお返ししていくつもりです。

門間弘司さん

ボランティアセンターと ボランティアコーディネーター

現場でボランティアが活躍するためには、被災者のニーズを把握し、ボランティアと被災者をつなぐボランティアコーディネーターの存在が欠かせません。日常的な取組み、被災地での活動などについて、ボランティアコーディネーターの声を紹介します。

迅速な対応のために 日常のネットワークづくり

日頃の関係を活かして

福井県では、1997年のナホトカ号重油災害の経験から、災害ボランティアの意識が高く、ふくい災害ボランティアネットでは、県の委託で研修を行うなど、行政と良い関係を築いてきました。今回、県と協力して速やかに活動を展開できたのは、この良い関係のおかげだと思います。

ふくい災害ボランティアネット
細川かをりさん

全国的なNPOとして

いくら災害対策が専門のNPO・NGOでも、被災地の人々にとっては全くの他人。よりよい支援活動を行うためには、日常からの顔の見える信頼関係がとても大切です。

被災地NGO協働センター
福田和昭さん

災害時に役立つ取組み

三重県では、県、社会福祉協議会、日本赤十字社が集まり、月1回、災害時にボランティア情報をどのように協力して発信するかを話し合っています。このような日頃の取組みから、今回も福井県へのボランティアバス（※）を協力して企画することができました。また、私は普段は地域のイベント運営を手伝うボランティア団体の代表をしています。イベントでは一度に多くのボランティアが集まり、トラブルにはその場で対応しなければなりません。このような場は災害現場と良く似ており、良い訓練になります。またイベントでの人との出会いも、災害時に役立つネットワークとなるのです。

三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会
山本康史さん

ボランティア

①ボランティアセンターの立ち上げと運営

⑦2004/7/23 福井県今立町水害ボランティアセンターにて

センターにおけるボランティアコーディネーターの役割は、被災者からのニーズ受付、ボランティア手配、ボランティア保険の対応、必要資材の手配、外部への情報発信など、多岐に渡ります。

②ボランティアの

⑧2004/7/25 福井県美山

ボランティア保険の
免許など、専門的な
してもらいます。

ボランティア

被災者の方に
がんばれる、や
気持ちが出まし
えたことが非常に
災害ボランティ
この気持ちを持
ろから始めること

兵庫県
ひょうごボ

⑤手洗い、うがい

⑩2004/7/26 福井県美

不衛生な泥を洗い
次回使う人のため
います。

⑥1日のボランティア活動の報告

※ボランティアバスとは？

災害ボランティア活動は、基本的には個人が自主的に行うことが理想的ですが、近隣県の社会福祉協議会や災害ボランティア団体などが地元からボランティアを募ってツアーを組むことがあります。宿泊を必要としない一日、または半日作業が多くなっています。

センターの一日

受付

町水害ボランティアセンターにて

加入、また、大型特殊
技術についても申請

ができること

「これからまた
っていこうという
た」と言ってもら
印象的でした。
アは、気負わず、
ってもらえるとこ
が大切です。
社会福祉協議会
ランタリープラザ
東 陽次郎さん

、後かたづけ

山町水害ボランティアセンターにて

流し、うがいもしっかり。
に、道具もきれいに洗

現場の活動を支えるために
短期の支援、長期の支援

二次災害を考慮して

被害者のニーズはその日によって変わります。また二次災害や健康を損なう恐れがある場合には、希望通りの活動ができず、待機をお願いする場合もあることを考慮してもらえると嬉しいです。

神戸市社会福祉協議会
三木あゆみさん

非日常から日常へ

災害ボランティアセンターというのは「非日常」なので、なるべく早く「日常」に戻す必要があります。その日常を担うのは地元の人々。外部からの役割は、地元のネットワーク作りを支援することだと思います。

ユース21京都　吉村裕司さん

③活動場所の手配

⑨2004/7/25 福井県美山町水害ボランティアセンターにて

被災者から集めたニーズと、ボランティアの希望を合わせ、活動現場を決定します。

体験を共有しよう

ボランティアを体験した人達が、地元に戻って経験を共有できる場が必要だと思います。災害救援活動のノウハウの蓄積と、日頃の訓練にもつながります。

JPCom　桑原英文さん

④現地での活動

⑪2004/8/3 福井県一乗谷地区朝倉氏遺跡にて

福井県一乗谷地区朝倉氏遺跡での作業の様子。元々は芝生で覆われていた敷地に20cm程積もった土砂を取り除きます。多くのボランティアが参加し、一日で巨大な土嚢の山ができました。

⑫2004/8/3 福井県一乗谷地区朝倉氏遺跡にて

被災地に行くためには

災害ボランティアの心得 ～水害ボランティアを例として

※三重県ボランティア情報センターホームページより作成。
（http://www.v-bosaimie.jp/mvic/）

ステップ0 自分の体調を確認する

「あなたの体調は万全ですか?」
現場では体力仕事が中心。ボランティア前日にはゆっくり休み、万全の体制で参加しましょう。

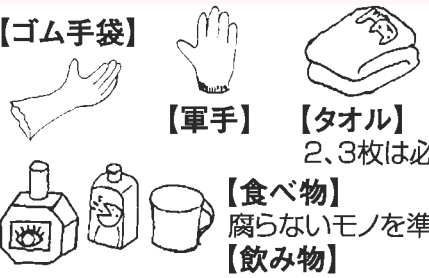
被災地への支援は、あなたが現地に行くことだけではありません。義援金や不足している資材を送ることなど、できることはたくさんあります。自分の身の丈に合ったボランティア活動を考えましょう。
神戸市社会福祉協議会
三木あゆみさん

ステップ1 モノをそろえる

「手ぶらで行っちゃあ、バカにされるぞ」
自己完結できるように、持っていくモノを準備しましょう。汚れてもいい服装で。

＜水害ボランティア装備リスト＞

【雨合羽】
【服装】
長袖・長ズボン
【長ぐつ】
厚手の靴下とセットで
【帽子】
【マスク】 【着替え】
粉塵対策



【ゴム手袋】
【軍手】
【タオル】
2、3枚は必要

【食べ物】
腐らないモノを準備
【飲み物】
2～3リットルくらい。夏は熱中症に注意!!
【水パック】
手足を洗うのに便利

【うがい薬】
【点眼薬】
粉塵がひどいのでこれも必需品

※これは水害ボランティアの一例です。実際に参加する時にはボランティア団体や経験者から話を聞いてみましょう。

ステップ2 活動場所を決める

「さあ被災地へ!、でもその前に」
被災地の状況は日々刻々と変わっています。あらかじめ現場の状況を確認し、被災地に行く時には、事前に問い合わせをしましょう。また、通常ボランティア用の宿泊場所はありません。宿泊の場合は、事前に自分で確保するなど迷惑がかからないようにしましょう。

被災地に勝手にテントを建てるのもやめようね。

ステップ3 現地へGO！

「現地スタッフの話をしっかり聞いて」
被災地により対応は様々です。現場のスタッフが被災地の状況や活動の心構えなどとても大切なことを話してくれますので、話をよく聞き、指示に従って行動しましょう。また、適度に休憩をとりながら、けがや病気に注意して下さい。

ステップ4 体験を共有しよう

「自分の体験を話してみよう」
今後の災害ボランティア活動の参考のためにも参加したボランティア団体や周りの人達に自分の体験談を伝えましょう。

被災現場にはボランティアコーディネーターも必要ですが、やはり一番大きな力を発揮し、被災者に勇気を与えているのは、たくさんのボランティア一人一人です。多くの人にボランティア活動に参加して欲しいと思います。
三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会
山本康史さん

取材協力

- **特定非営利活動法人　ふくい災害ボランティアネット**
  TEL/FAX 0778-21-3966
  URL: http://www.fukui-dvn.com/
- **三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会**
  （事務局代行 三重県地域振興部防災チーム）
  TEL: 059-224-2189 FAX: 059-224-2199
  URL: http://www.hanzou.or.jp/saigai/bvc/index.htm
  （写真②⑦⑧⑨提供）
- **兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランタリープラザ**
  TEL: 078-360-8845 FAX: 078-360-8848
  URL: http://www.hyogo-vplaza.jp
  （表紙写真、写真①④⑤⑥提供）
- **ユース21京都(日本赤十字社京都府支部内)**
  TEL:075-541-9326 FAX:075-541-1361
- **神戸市社会福祉協議会**
  TEL: 078-271-5306 FAX: 078-271-5365
  URL: http://www.with-kobe.or.jp
- **被災地NGO協働センター**
  TEL: 078-574-0701 FAX: 078-574-0702
  URL: http://www.pure.ne.jp/~ngo/
- **JPCom**
  TEL: 0798-64-5829 FAX: 0798-65-5254
  URL: http://www.jpcom.info/
- **上野市社会福祉協議会**
  TEL: 0595-21-5866 FAX: 0595-26-0002
  URL: http://www.hanzou.or.jp
  （写真⑩提供）

※順不同

３.防災ボランティア活動に係る人材育成の実例

（１）研究機関による人材育成の実例

資料提供：人と防災未来センター

平成１５年度ボランティアコーディネーターコース講義
阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ　（※平成１６年度にも同様の講義を実施。）

コースの目的	**民間のボランティア支援を被災地に効果的に導入するノウハウ（知識と実践）を収集・整理し、さらにそれらの「知」を実践に活かせる人材の育成を目指す**
対象者	**全国で実際に災害救援・復旧活動に参加してきた市民活動者・団体**（NPO・NGO）
1日目　阪神淡路大震災に学ぶ」	
9：30-10：30	講義　災害時における協働の形成」立木茂雄　(同志社大学／DRI 上級研究員) **・災害時におけるボランティア活動を広い視野からとらえ、行政や企業活動の関わりや役割などをボランティアに関する「大きな見取り図」の紹介** **・阪神淡路大震災のノウハウが日本海重油災害で活かされた** **・市民社会組織と行政の協働関係を考えるための分析（ピラミッド型構造－ネットワーク構造、フォーマル組織－インフォーマル組織）**
10：40-12：00	講義・見学　阪神・淡路大震災を語り継ぐ、考える」荒井勣　(語り部ボランティア) **震災後のボランティア活動、避難所での体験談** **瓦礫のまちにひまわりを！（ひまわりの種の袋詰め）**
13：00-16：00	パネルディスカッション　「その直後、激動の時間をこう迎えた」黒田裕子　(阪神高齢者・障害者支援ネットワーク)、桜井誠一　(神戸市市民参画推進局)、馬場正一　(ひょうごボランタリープラザ)、山添令子　(コープこうべ)、山口一史　(ひょうご・まち・くらし研究所／コーディネーター) **ボランティアに関わる部署で活躍した行政・社協・生協・衣料専門職の講師からの体験報告。震災直後の様子／組織としての対応／ボランティア対応／ニーズの把握／提言についてそれぞれコメント。**
16：40-18：30	阪神淡路大震災の被災地に学ぶ　見学意見交換」まち・コミュニケーション　(御蔵地区) **長田区復興まちづくりの現場視察。住民を支援してきた市民団体からの復興の困難さ、事前に必要な備えに関する報告**
2日目　災害時のボランティアセンター設置運営」	
9：30-10：50	講義　災害時のボランティアコーディネート」栗田暢之　(レスキューストックヤード) **阪神淡路大震災の体験、地元名古屋市での水害対応や他の災害被災地での救援活動の紹介。災害ボランティアの文化の形成、救援物資の処理、清掃・健康管理などコーディネート実例**

11：00-12：30	演習『ボランティアコーディネートの事例研究』栗田氏ほか3名 **過去の災害で実査にあった事例からボランティアコーディネーターとしての対処方法をグループ討論（例：「ニーズ 300 名分なのにすでに 500 人のボランティアが並んでいる場合の対処方法」「被災者支援のために携帯電話 100 本を寄贈したい」「ボランティアに行った息子にいい加減返るように説得してほしい」等）**
13：20-14：20	講義『災害ボランティアセンターとは』栗田暢之（レスキューストックヤード） **東海豪雨水害、宮城県北部地震それぞれの災害ボランティアセンター実例**
14：30-17：00	演習『災害ボランティアセンターに求められるもの』栗田氏ほか3名 **理想の「災害ボランティアセンター」の機能に関するグループ討議** **災害発生後の設置のタイミング、声をかける人／設置運営に必要な人材、活用すべきネットワーク／設置運営に必要な資機材・資金、調達方法／誰もが利用しやすいセンターのための、コーディネーターとしてのボランティアマインド（概念）**
17：10-18：00	**討論「ふりかえり」**
3日目『これからの備え』	
9：30-10：30	『災害ボランティアの意義と可能性』室崎益輝（神戸大学／DRI 上級研究員） **・災害ボランティアが集まる理由** **・災害ボランティアに求められる５つの資質（専門性・機能性、連携性・組織性、規範性・自立性、持続性・即応性、自立性）** **・災害ボランティアの将来的展望（組織的な課題、実践的な課題）**
10：40-12：00	『災害・防災・減災とボランティア　人としての関わり方に焦点をあてて』大江浩（横浜YMCA） **「人間」からみた災害／死別体験・喪失体験／災害における「こころ」の問題／サンフランシスコでの「災害とストレス」研修／様々な緊急援助者との出会い**
13：00-16：00	『地域での日常活動が生み出す『事前防災』～地域から全国まで～』栗田暢之（レスキューストックヤード:家具転倒防止）、村井雅清（被災地 NGO 協働センター：全国ネットワーク）、渥美公秀（大阪大学：コーディネーター） **・災害発生後の対応から、事後対応を可能にするための日常的な活動。防災や減災に焦点をあてた地域活動を日常的にこなしていく方法** **・受講者全員による討論会による現状や課題に関する意見交換、今後取り組むべき課題の共有**

（２）都道府県社会福祉協議会の育成実施例

資料提供：みやぎボランティア総合センター

災害ボランティアセンター体制整備に関する研修会

災害時にボランティアを受け入れる意義を理解し、「災害ボランティアセンター」の設置運営のあり方、また、その中枢を担う災害ボランティアコーディネーターの役割について学ぶ研修を、管理者向け「運営研修会」と職員向け「コーディネーター研修会」に分け各地方単位で実施した。

また、県から派遣される県職員を対象に「宮城県職員向け研修会」、ＮＰＯ・市民団体向けに「災害ボランティアセンター連続講座」を実施し一般県民向けの研修を実施した。

災害ボランティアセンター運営研修会

説明「災害ボランティアセンター設置運営の手引き」の理解

説明：みやぎボランティア総合センター

講義「具体的設置方法とセンター運営について」

講師：ＮＰＯ法人ハートネットふくしま　理事長　吉田公男氏

参加：34 名

災害ボランティアコーディネーター研修会

説明「災害ボランティアセンター設置運営の手引き」の理解

説明：みやぎボランティア総合センター

講義「具体的設置方法とセンター運営について」

講師：ＮＰＯ法人レスキューストックヤード　代表理事　栗田暢之氏

もしくは神戸市長田区社会福祉協議会　主事　長谷部治氏

演習①「災害ボランティアセンターに求められるもの」

演習②「災害ボランティアセンター受付模擬演習」

参加：35 名

宮城県職員向け運営研修会

説明①「宮城県における災害ボランティアの体制整備について」

説明：宮城県保健福祉部　社会福祉課

説明②「災害ボランティアセンター設置運営の手引き」の理解

説明：みやぎボランティア総合センター

講義・演習「災害ボランティアセンターにおける協働の重要性」

講師：ＮＰＯ法人レスキューストックヤード　代表理事　栗田暢之氏

参加：160 名

災害ボランティアセンター連続講座

第１回　平成１７年１月２２日　パレス宮城野　参加者１８５名

説明「宮城県おける災害ボランティアの体制整備について」

説明：みやぎボランティア総合センター

シンポジウム「被災地現場からの声」

シンポジスト：NPO 法人まちづくり学校　寺島義雄氏

ながおか生活交流情報ネット　桑原眞二氏

㈱みちのく企業グループ　大須賀純氏

東北福祉大学３年　末木晃氏

第２回　平成１７年２月２６日　ハーネル仙台　参加者７２名

演習「災害ボランティアセンターの設置と運営」

講師：NPO 法人まちづくり学校　寺島義雄氏

（３）ＮＰＯ団体による育成実施例

資料提供：NPO 法人防災ネットワークうべ

『宇部市災害ボランティアコーディネーター・リーダー育成研修会』概要

平成１４年1月１３日、１４日
主催　宇部市、財団法人自治総合センター
共催　NPO 法人防災ネットワークうべ
後援　総務省消防庁、下関地方気象台、山口大学工学部、山口県
　　宇部市自治会連合会、宇部市市民生児童委員協議会、
　　宇部市社会福祉協議会
協力　陸上自衛隊第１７普通科連隊、総務省中国総合通信局
　　日本赤十字社山口県支部、NTT 西日本、宇部市消防本部、宇部市水道局
　　宇部市教育委員会、阿知須町社会福祉協議会、NPO 法人森と海の学校
　　YAC 山口冒険クラブ野外活動委員会、宇部キャンプ協会、

日時	内容
１月１３日	
09：30～10：00	開講式・オリエンテーション
10：00～10：30	講演「なにができるの？災害ボランティア」 重川希志依
10：30～12：00	炊き出し体験研修
12：45～15：30	防災ウォークラリー
12：45～15：30	防災体験講習 　起震車体験、消火訓練、煙体験。救急講習、車いす講習
15：45～18：00	災害図上体験研修（DIG）
18：00～	炊き出し体験・避難所体験研修
１月１４日	
07：30～08：45	炊き出し体験研修
09：00～10：30	避難所運営研修
10：40～12：00	講演「災害ボランティアの可能性～震災以降の現状と展望～」　渥美公秀
12：00～12：30	修了式

（４）災害図上訓練

資料提供：富士常葉大学小村隆史助教授

ＤＩＧ：災害（Disaster)、想像力（Imagination)、ゲーム（Game）の頭文字をとって名づけられた、一般市民が独力で、「一人千円会費・缶ビール１本・おつまみ付き」で出来る、災害図上訓練ノウハウのこと。

地区や学校でＤＩＧを行う場合のﾎﾟｲﾝﾄは、畳２枚大に広げられた地元の地図を前に、その土地に起こりえる災害の様相を、参加者がお互いに話し合い、地図に書き込みを行うことを介して、より具体的にイメージしてもらうことにあります。また、（災害に備えた）わがまちの、有形無形・人的物的「財産目録」をつくることでもあります。

「どのような被害が（どこで・どのくらいの規模で）予想されているのか？」「街(地区)の構造はどうなっているのか？」「危険な場所や注意しなければならない施設は何でどこにあるのか？」「何かあった時にお世話になる場所や施設は何でどこにあるのか」「近所に手助けが必要な人はいないか」「逆にいざとなったら当てにできそうは人はどこにいるのか」等々。これらを地図に落とし込むことで（再）確認します。そして、目の前に畳２枚大で広がる被災イメージが現実のものにならないようにするため、これから、このまちをどのように変えていけばよいのか、普段の生活の中でどのような備えをすればよいのか、そのことを話し合い、少しでも災害に強いコミュニティへと育てていこう変えていこう、それがＤＩＧなのです。

【災害を知る・地域を知る・人を知る】

中学３年生の「総合的学習の時間」に行うことを想定

【事前準備１　生徒（参加者）の予習として】

１．防災倉庫の場所を確認する（防災倉庫の中身もチェックしてみるとよいでしょう）
２．防火水槽・消火栓・街頭消火器のある場所を確認する
３．避難時の集合場所を確認する
４．近所に潜む「危険な場所」を調べる(倒れそうなブロック塀など)
５．近所に「手助けが必要な人」を調べる(車椅子での生活者、寝たきりの人など)

【事前準備２　地図の準備】

６．使用する地図は、住宅地図を等倍（あるいは拡大）コピーしたものの貼り合せ
　※住宅地図の利用にあたっては著作権に留意のこと。
７．地図の余白を切り取り、貼り合わせて１枚の大きな地図にする
８．透明のシートをかぶせ、ガムテープで固定する
９．透明シートの上から、地図の４隅にマジックで「　」印をつけ、地図とシートの位置あわせのマークとする

【まちの構造の確認　：　鉄道・道路・河川・オープンスペースなどの記入】

１０．鉄道を黒マジック（太線）でなぞる

１１．国道や県道など主要道路を茶色マジック(太線)でなぞる

１２．河川や湖沼、用水、プールなどの自然水利と、海岸線を青色でなぞる

１３．オープンスペース（広場、公園、学校、神社・仏閣など）は、敷地の輪郭線を緑マジック（太線）でなぞる

１４．概ね幅員（道幅）が１．５m以下の路地を赤（太線）でなぞる

１５．鉄筋コンクリート造、鉄筋鉄骨造、鉄骨造の建物は、その建物の輪郭線を紫マジック（太線）でなぞる

１６．田畑は、その周囲を黄色（太線）でなぞる

１７．町内の境を線で区分けする黄色

１８．（被害想定調査に基づく）町丁目単位での大破戸数の塗りつぶし赤色

１９．（被害想定調査に基づく）町丁目単位での中破戸数の塗りつぶしオレンジ色

２０．大破・中破の戸数や比率を町丁目毎に地図上に記入黒・細字

２１．モデル建物を用いての耐震診断の実施

【防災に関する地区の「財産目録」の作成　：　施設・資源などの落とし込み】

２２．官公署・医療機関など、防災上の拠点・設備を表示する

・市役所(出張所)　・消防署　・警察署　など防災行政

・医療機関（総合病院、医院、薬局等々）　医療

・学校　・公民館　・神社仏閣教会　など避難所（候補）

・老人健康施設　・幼稚園保育所　など弱者（要救護者）施設

・食糧の備蓄が期待できる施設（スーパー、米穀店、小売店など）　食糧

・燃料調達が可能な施設燃料

２３．地域の防災を考える上で、プラスの意味を持つ特別な施設等を表示する

・重機を持っている企業　・可搬ポンプを持っている企業

２４．地域の防災を考える上で、マイナスな意味を持つ特別な施設等を表示する

・危険物の貯蔵施設　・

【作業のまとめと、将来に向けて】

２５．地域の特徴を考える（１項目ずつポストイットに書き出す　・重複があっても可）

２６．被害を出さないための備え（被害の発生抑止のための備え）を考える

・主に「モノ」を強くすることで、被害に遭わないようにする備え

・１項目ずつポストイットに書き出す　・重複があっても可

・被害抑止力の向上（Mitigation、減災）のために何をすればよいのか、考える

２７．被害を広げないための備えを考える

・主に「人」「こと」を強くすることで、被害を最小にとどめる備え

・１項目ずつポストイットに書き出す　・重複があっても可

・被害軽減力の向上(Preparedness)のために何をすればよいのか、考える

２８．救助・救出のため普段備えておくことは

・２７の中でも人命救助に直結するものについて、特に項を改めて表示

２８．２９．

・１項目ずつポストイットに書き出す　・重複があっても可

・模造紙に、２５～２８の項目別にならべ、ＫＪ法などの技法を使って整理する

３０．グループ毎に発表し、共通認識とする

その他・補足など

(1). 被害想定をどのように活用するか

(2). 人の要素をどのように関連づけるか

(3). まとめ・発表は必ず行うようにして下さい！

同様に、工程２４と２５の間で、さらにもう一枚ビニールシートをかぶせ、工程５で調べた「災害時要救護者」や「お役立ち人物」を（工程２２～２４のように）色別シールで示すと、わがまちの「人材目録」を簡単に作ることが出来ます。この場合、色シールは（工程２２～２４で使ったものよりも）小さいほうがよいでしょう。

工程３０でも書きましたが、自らの発見を確認し、お互いの発見を共有するためには、まとめ・発表は不可欠です。グループ数が多かったりワークショップの時間が短かったりすると、どうしてもおざなりになってしまいがちですが……。ワークショップを「しめる」という意味でも、必ず行って下さい。　多くの自治体では被害想定調査報告書、あるいはいわゆる「ハザードマップ」が公表されています。工程２４と２５の間で、地図にもう一枚ビニールシートをかぶせ、その上から（例えば）「震度６強以上の地震動が想定される地域」「液状化の発生が危惧される地域」「津波の浸水域」「がけ崩れ危険地域」「土石流危険渓流」「といった、想定される被害を書き込むことで、我がまちに起こりえる被害は、より具体的なものとして認識することが出来るでしょう。ワークショップを「しめる」という意味でも、必ず行って下さい。

（５）都道府県の実施例（アンケート調査結果より）

都道府県	事例概要 ･連携団体名等
秋田県	県と県社会福祉協議会の共催で、「災害ボランティアコーディネーター養成研修」を実施。災害ボランティアセンターの運営とコーディネーターの業務。災害ボランティアセンター立ち上げシミュレーション訓練。図上訓練「DIG」の実施。
千葉県	本県では、災害救援ボランティア推進委員会が実施している「災害救援ボランティア講座」に講師を派遣するなど、その開催を支援しているところである。
神奈川県	神奈川県災害救援ボランティア支援センターの設置訓練を災害救援ボランティア団体と連携して実施。災害救援ボランティアコーディネーター養成講座を災害救援ボランティア団体と連携して開催。
石川県	一般県民を対象とした「災害ボランティア育成講座」を県内３会場で実施している。その業務を県内のＮＰＯ団体（石川災害ボランティアネットワーク）に委託して開催するなど、日頃より連携を取っている。
福井県	平成１６年度　①災害ボランティア活動に関する情報交換等のため年３回「福井県災害ボランティアセンター連絡会」を開催した。②県内２箇所で、災害ボランティア活動に関するブロック別研修会を実施した。（内容：講演会及びボランティアセンター立ち上げ及び運営シミュレーション）③災害ボランティアリーダー養成のための研修会を実施する予定である。（3 月 12 日、13 日）
山梨県	県主催ではないが県内の有志によるボランティア団体及び個人が集い情報交換を行う場に出席（山梨県災害ボランティア連絡会議）災害ボランティア育成講座を日赤山梨支部との共催、県社会福祉協議会、県ボランティア協会の協力のもと実施。
静岡県	ボランティア団体の意見交換会や研修会等への職員派遣。他県の被災地に県内ボランティア団体が赴く場合における、交通規制等の情報提供及び災害救助従事車両の認定。災害ボランティア関連事業の企画・検討の際の会議。災害ボランティアコーディネーターの養成（平成 8～14 年度、NPO 法人静岡県ボランティア協会に委託 819 名養成）
三重県	平成１１年度に三重県が主催し、県・学識者・市民有識者によって構成された「防災ボランティアコーディネーター養成検討委員会」の提言を受けて、平成１３年度から「三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会」によりボランティアコーディネーター養成講座を実施している。
滋賀県	県内に災害ボランティアのネットワークを構築するために、県内のボランティア・ＮＰＯと県社会福祉協議会、県担当者がフォーラム・会合を開催している。
京都府	専門ボランティア：別紙の通り「京都府災害救護専門ボランティア登録制度」「京都府災害ボランティア運営協議会」運用・設置し、防災講演会の開催、ニュースレターの発行を行っている。
奈良県	県主催で、県及び市町村職員と県内ボランティア・ＮＰＯ等が参加する意見交換会を実施

	（H16 年度は 2 回開催）
和歌山県	防災ボランティア・コーディネーター研修を毎年 1 回行っているほか、県防災総合訓練への参加等で連携している。
鳥取県	県補助事業により県社会福祉協議会がボランティア団体との協議会やリーダー育成などの研究会を実施。
岡山県	災害ボランティアコーディネーターの育成講座へのプレイベントとして地元ボランティア団体等にも呼びかけセミナーを開催した。
徳島県	災害ボランティア、災害ボランティア活動を理解するための講習会、研究会を実施。実際にボランティア活動に携わるものによる、災害ボランティア活動報告会を随時実施
香川県	平成１６年度は、県事業である「防災・災害復旧支援研究事業部会」の中で関係団体と協議し、平成 17 年度 1 月 22 日～23 日には「防災ボランティアのつどい」を協働で開催したところである。このつどいの中で、関係団体によって「香川県災害ボランティア協議会」が設立されたことから、今後は、この協議会と連携して、マニュアルの作成など災害ボランティアに関する支援を行っていく予定。
愛媛県	災害に特化したものではないが、県社会福祉協議会においてボランティア個人を対象としたボランティアリーダー、ボランティアコーディネーター等の講習を実施している（国と県の補助事業）。
山口県	山口県レスキューバイクネットワーク→物資の搬送。山口県ボランティアセンター（山口県社会福祉協議会）→災害ボランティアセンターの設置。防災ネットワーク・うべ→災害パネルの展示・災害図上訓練の紹介。山口県被災建築物等危険度制定協議会（危険判定士）→建物の危険度判定。
福岡県	福岡県災害ボランティア連絡会を発足し、連絡会で研修会および講演会など講師を招き実施。
佐賀県	平成 16 年度に県社会福祉協議会が災害救護ボランティアセミナーを開催。
大分県	災害ボランティアの募集、登録や災害ボランティアの基礎的研修の企画・実施、災害ボランティアコーディネーター養成の研修の企画、実施等を行う大分県災害ボランティア運営委員会（県社会福祉協議会内）に対し、県が補助を行っている。

４.男女共同参画に関する資料

「男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本的な方向についての中間整理」平成１７年５月　男女共同参画会議　男女共同参画基本計画に関する専門調査会、女性に対する暴力に関する専門調査会（８２～８３ページ抜粋）

１２．新たな取り組みを必要とする分野における男女共同参画の推進

（２）防災・災害復興

【現状・課題】

● 阪神・淡路大震災時、「女性のこころとからだ」電話相談（民間・無料）に寄せられた件数（１９９５年２～６月の計）

項目	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
幼児虐待	66	37		1		104
不眠	94	55	144	4	85	305
恐怖感／不安	72	41	38	6		162
うつ／うつ再発	5	4	12			21
体調不順	20	19	6	3	2	104
人間関係のトラブル	56	68	137	10	4	275
家族関係のトラブル（震災離婚／同居等）	88	84	129	2	4	307
就職問題／セクハラ等	64	21	31			116
子どもの心配	57	114	27	6		204
レイプ／レイプ未遂	31	5	1			37

● 過去の震災時に、増大した家庭的責任が女性に集中し、女性のストレスが増えた。また、被災者女性に比べ、行政・ボランティアともに支援する側に女性の担当者が少ないこと、男女のニーズの違いを把握しない予防、応急、復旧・復興対策が行われたこと等の問題点があった。

● 国連防災世界会議（平成１７年１月）において、我が国は、防災協力の全てにおいてジェンダーの視点に立った支援を行うという内容を含む「防災協力イニシアティブ」を発表した。

【施策の基本的方向】

国連防災世界会議（平成１７年１月）において我が国が「防災協力イニシアティブ」を発表したが、その中に防災分野におけるジェンダーの視点を明記している。

災害発生時の経験から、被災時には増大した家庭的責任が女性に集中することなどの問題が明らかになっており、防災・復興対策は、男女のニーズの違いを把握して進める必要がある。これら被災・復興状況における女性をめぐる諸問題を解決するため、男女共同参画の視点を取り入れた防災・災害復興体制を確立する。

【具体的な取組】

- 防災基本計画等に、男女共同参画の視点を明確に位置付ける。また、地方公共団体等に対して国に準じた措置を講ずるよう要請する。
- 防災分野での固定的性別役割分担意識をなくすとともに、防災に関する政策・方針決定過程への女性の参画を拡大する。
- 防災における女性高齢者等の被災が多いため、防災施策の立案、実施及び情報提供に当たっては、高齢者、外国人等の視点も踏まえる。また、緊急時における連絡体制の整備や、避難誘導等に関して、平時からの高齢者、外国人等に対する普及・学習機械の拡充を図る。
- 地方公共団体の災害に関する各種対応マニュアル等に男女共同参画の視点を踏まえる要支援を行う。
- 地域コミュニティにおける防災活動についても、固定的な性別役割分担意識の改称や方針決定過程への女性の参画の推進など、男女共同参画の視点を取り入れることを推奨する。
- 消防職員・警察官・自衛官等について、防災の現場に女性職員が十分に配置されるよう、採用・登用の段階も含め留意する。また、その職業能力の向上ににについても配慮する。
- 「防災協力イニシアティブ」に基づき、国際的な防災協力に当たっては、男女共同参画の視点を踏まえ援助を行う。
- 災害復興に当たるボランティア、ＮＰＯとの連携を図り、男女共同参画の視点を踏まえた復興支援が行われるよう努める。